

成田地区社協だより

令和7年3月発行

第55号

編集発行: 成田地区社会福祉協議会 広報部会

電話: 成田市社会福祉協議会(代) 0476-27-7755



まず隣 「和」と「輪」でつなぐ 愛の手を



成田市制施行70周年記念

令和6年度成田地区敬老会を開催

社会福祉協議会

成田市社会福祉協議会



成田地区社会福祉協議会は、成田市及び成田市社会福祉協議会との共催により、令和6年9月29日に、成田国際文化会館で市制施行70周年記念成田地区敬老会を開催しました。当日は、一般参加者を含めて約760人の皆さんに参加していただきました。

式典では、印宮昭夫 成田地区社会福祉協議会長、宮崎廣文 成田市社会福祉協議会副会長の主催者あいさつの後、山田徳雄 成田市高齢者クラブ連合会成田地区会長から、招待者を代表しての謝辞をいただきました。

その後、「お楽しみ芸能発表会」を開催し、美郷台小学校と成田小学校の合唱、成田中学校の吹奏楽演奏、花崎町女人講の日本舞踊及び成田山新勝寺の舞楽を観賞していただきました。

芸能発表会の中では、小泉一成 成田市長からのユーモア溢れる主催者あいさつがあり、会場の楽しい雰囲気が一層盛り上がりしました。

また、発表の合間には、成田・中郷地域包括支援センターの職員による健康体操で、招待者の皆さんと一緒に軽易な運動をしながら、楽しいひと時をともに過ごし、「敬老の日」をお祝いしました。



謝辞
山田徳雄さん



主催者あいさつ
印宮昭夫会長

出演者の 皆さん



成田山新勝寺



成田小学校合唱部



美郷台小学校合唱部



花崎町女人講



成田中学校吹奏楽部

「成田地区敬老会に想うこと」

成田地区社会福祉協議会 会長 印宮 昭夫

敬老会前日の28日は、午後2時から4時過ぎまで、本番当日のプログラムとお茶等の袋詰め作業、受付のレイアウト、救護所の設置、場内壇上の準備、成田地区敬老会の横断幕、国旗・市旗の取付け、花崎町女人講の日本舞踊のリハーサル等、準備万端にて終了。

当日は、役員・スタッフ合わせて59人と共催者の市福祉部の職員2人、市社会福祉協議会の職員2人が参加協力されました。午前8時30分に文化会館に集合（送迎バスの担当者は、各発車場所に同時刻に集合）し、9時30分に受付を開始、同時にそれぞれが担当の持ち場につき業務開始です。式典は、午前10時から始まり、10時20分で終了。その後、お楽しみ芸能発表会が開催され、ほぼ予定通り順調に進み12時50分に終了。



バス担当者が安全に誘導



万全を期して準備（前日）



幕間には健康体操

敬老会は、「いきいきサロン」の集大成の場です。成田地区では、5つの地域でそれぞれ「いきいきサロン」を行っておりますが、いつも思うことは「三位一体」。つまり、主催者、出演団体、対象高齢者、この三者が一体となることが大切であると思います。今年の成田地区敬老会は、まさに三位一体、対象高齢者の満足した笑顔に、出演団体の方々はもちろん、我々共催者側も準備で多忙を極めたことなど忘れるくらい達成感を感じましたし、同時に、人と人との交流の大切さを改めて実感しました。

役員、スタッフ並びに関係者一人一人の熱心なご協力に、心より感謝を申し上げます。

「福祉体験学習」に参加して

成田地区社会福祉協議会 広報部会 唐川 義明

令和6年9月18日に、美郷台小学校で4年生（2クラス47人）を対象に、福祉体験学習が行われました。

市社協職員と成田地区社協理事合わせて21人が指導員・指導補助員として参加しました。子どもたちは、指導員の市社協職員から車椅子の操作方法や介助する人のルール、ブラインドウォークの白杖の使い方、点字ブロックの説明、介助する人の立ち位置や声かけのルールを教わり、それぞれ2人1組になり、交互に体験しました。



準備も真剣に力を合わせて



指導員による車椅子の操作とクロックポジションの説明



ブラインドウォークの実演

車椅子体験では、坂道の上下りや段差のある所では、車椅子に乗っている人に不安を感じさせない様に声かけをして、慎重に介助をしていました。

白杖を使ってのブラインドウォークでは、白杖を左右に振りながら不安そうに歩いていましたが、途中から介助役の誘導、声かけで上手く歩行することができ、クロックポジションも介助役の誘導で良くできていました。

点字ブロックでは、白杖で確認しながら足の感触と介助役の声に集中し、誘導ブロック、警告ブロックを感じ取り歩行することができました。



補助員が安全を確保



高齢者疑似体験装具の装着

高齢者疑似体験では、後期高齢者を想定し、視覚障がいゴーグル、手袋、ステッキ、前かがみ体験ベルト、肘・膝サポーター、おもりバンド（手・足）を指導補助員が子どもたち全員に装着し、体験してもらいました。指導補助員は、それぞれのポジションに配置され、体験する子どもたちの指導に当たりました。「高齢者になると、こんなにも日々の日常生活が大変なんですね」と感じ取ってくれた子どもたちもいたようでした。

4年生を対象に3種類の疑似体験を行いました。この体験で、身体の不自由な人、視覚障がい者、高齢者の日常生活での大変さが分かってもらえたと思います。

これを機に、困っている様々な障がいを持つ人に声をかけ、助けであげられる優しい心を持った人になって欲しいと思います。

「楽しいお正月遊び」

成田地区社会福祉協議会 児童部会 戸村 政雄

令和6年11月7日、付属小学校の1、2年生72人を対象に、お正月遊び（お手玉・だるま落とし・福笑い・かるた・こま回し）の遊び方を支援するため、地区社協の15人の一員として参加しました。

支援する大人たちは、「遊びの名人」という立場です。子どもたちは、7、8人のグループで5種類の遊びを体験しました。思い思いにお正月遊びにチャレンジしました。初めてやる遊びもあり、子どもたちの興味津々で真剣な眼つきを見て、名人たちも「しっかりやらねば」という想いを強くしま



慣れないお手玉にチャレンジ



福笑いの出来栄は？



真剣勝負？のかるた取り

した。私が担当した「こま回し」は、紐の巻きつけ方がまだ1、2年生には難しく感じられました。回すための投げ方も手首に力がないたため、回転させることが難しいようでした。小さな手で紐を巻きつけたが途中で緩んで再度巻きつけたり、悪戦苦闘の連続でしたが、失敗しても次は上手に回すぞといった前向きな姿勢が印象的でした。こま回しを上手にできる子に話を聞くと、父親と一緒にしたことがあり、紐の巻き方も教えてくれたそうです。

「だるま落とし」は、たたく場所をじっくりと見つめる真剣な眼差しと一瞬でだるまが落ちる様に歓声があがり、「福笑い」では、それぞれの出来栄に笑いが溢れました。「お手玉」では、色々な遊び方を体験しました。

子どもたちは、初めての体験が楽しかったようでした。



紐の巻き方が重要

新任民生委員・児童委員紹介 (敬称略)

齋藤 淳一

担当地区：南平台



※任期は、令和7年
11月30日まで

【編集後記】

今号の編集に携わって、「敬老会」や「小学校学習支援」などの地区内のイベントが、地区社協の理事の皆さんのご活動に支えられていることを改めて実感しました。理事の皆さんのご尽力に感謝します。

「社協だより」で、皆さんのご活動を紹介できることを嬉しく思います。これからも、よろしくお願いします。

広報部会 Y. A

